

音楽の都ウィーンを 牽引する若きスター

ウィーン国立歌劇場の“新”コンサートマスター ストラディヴァリウスの“黄金の音色”

ウィーン・フィルでもコンサートマスター
として演奏する姿が見られる

ヤメン・ サーディ

ヴァイオリン・リサイタル

《ウィーンより“愛”をこめて》

クライスラー傑作選 (愛の喜び、
愛の悲しみほか)
ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ
第2番、第3番



ピアノ **中川優芽花**

藤田真央、河村尚子が優勝した
難関クララ・ハスキル国際(スイス)に
19歳で優勝し一躍脚光!
ドイツ生まれドイツ育ちの本格派超新星が
本ツアーのため特別に帰国!

©Susanne Diesner

2024 **6.29** (土) 15:00開演 (14:15開場)

東広島芸術文化ホールくらら 大ホール

S席 4500円/A席 3500円/学生(大学生以下) 2000円

[枚数限定 SS席 5000円]

くららフレンズ ▶ S席 4200円/A席 3200円

※SS席および学生席は会員割引なし
※未就学児入場不可

チケット
取り扱い

- くらら インターネット予約、窓口、電話
082-426-5990 (10-19時 定休日なし) <https://kurara-hall.jp/>
- チケットぴあ <https://t.pia.jp> (Pコード 266-895)

くららフレンズ
先行発売!!
4月5日(金) 午前10時

一般発売
4月10日(水) 午前10時

公演詳細は
こちらから



©Julia Wesely

イスラエル出身のパレスチナ人、ヤメン・サーディ “クライスラーのストラディヴァリウス”で クライスラーを弾く！

ヤメン・サーディは2022年の秋、25歳にしてウィーン国立歌劇場管弦楽団コンサートマスターに任命され世界に衝撃が走った。そして今年2月、試用期間を無事に突破し正式にコンサートマスターに就任。まさにウィーンが認めた演奏家だ。ウィーン・フィルでもすでにコンサートマスターとして演奏する姿が目撃されており、今後ウィーン、そして世界の音楽界を牽引する存在になることは間違いがない！初のツアーはブラームス&クライスラー。すなわちウィーン全開のプログラムを、クライスラーが所有したストラディヴァリウスで聴く！これは音楽ファン必聴！この日は全員、西条に集結だ！！

Program

クライスラー編曲&小品集

- ドヴォルザーク：母の教え給いし歌
- ドヴォルザーク：スラヴ舞曲 ホ短調 Op.72-2
- ホイベルガー：オペラ舞踏会より
第3幕 真夜中の鐘「別室へ行きましょう」
- ファリャ：はかない人生より「スペイン舞曲第1番」
- クライスラー：美しきロスマリン
- クライスラー：愛の喜び
- クライスラー：愛の悲しみ
- クライスラー：前奏曲とアレグロ

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第2番

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第3番

ヤメン・サーディ (ヴァイオリン) Yamen Saadi, violin

25歳にして2022/23シーズンよりウィーン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターに就任。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でもコンサートマスターとして演奏する姿が見られている。ソリストとして、室内楽奏者として多忙なキャリアを送っており、ベルリンのモルゲンポスト紙には「魅惑的な音色」と評された。2022年5月にはレオニダス・カヴァコス の代役としてイスラエル・フィルにソリストとしてデビューした。ソリストとしてこれまでにシュターツカペレ・ベルリン、イスラエル・フィル、ヨーロッパ室内管、ポーランド国立放送響、バレンシア管弦楽団、クレメラータ・バルティカ、エルサレム響などと共演し、ダニエル・バレンボイム、ローレンス・フォスター、レオニダス・カヴァコス、ヤロントラウブ、クリストフ・ポップンなどの指揮者と共演している。カーネギーホール、ラインガウ音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、エルサレム音楽祭、シュロス・エルマウ

などヨーロッパ、アジア、アメリカの様々な音楽祭やコンサートホールで演奏してきた。

2022年1月リリースしたCD『Voices From Paris』は「名人芸、叙情性、抑制された表現力が完璧にブレンドされている」、「素晴らしいしなやかさ、柔軟性、細かく幅広いダイナミックレンジ」などと絶賛された。

ナザレに生まれ、同地のバレンボイム＝サイド音楽院でヴァイオリンを学び始める。その後、イスラエル・フィルのコンサートマスター、チャイム・タウブの指導を受け、11歳でウェスト＝イースタン・ディヴァン管に入団し、17歳で同オーケストラのコンサートマスターに就任。バレンボイム・サイドアカデミーで学士号を取得するとクロンベルクアカデミーでミハエラ・マーティンに師事し、修士号を取得した。1734年製のストラディヴァリウス「Ex Lord Amherst of Hackney, Ex Fritz Kreisler」を使用している。



©Susanne Diesner

中川優芽花 (ピアノ) Yumeka Nakagawa, piano

ドイツに生まれ育った日本人ピアニスト。2021年、スイスで開催されたクララ・ハスキル国際ピアノコンクールで優勝、および聴衆賞ほかも併せて受賞した。またデュッセルドルフで開催されたロベルト・シューマン国際コンクール(2019)、およびイエネ＝タカーチ国際コンクール(2018)でも優勝している。2019年以降ロンドンのウイグモア・ホール、デュッセルドルフのトーンハレ(ゾイツォカナー指揮デュッセルドルフ交響楽団と共演)、ワイマールハレ(マルクス・レフランク指揮のイエナ・フィルハーモニー管弦楽団と共演)などで演奏している。最近では、サンクトペテルブルクで開催された第16回マリンスキー国際ピアノフェスティバルに招待された。2022-23シーズンはクリスティアン・ツァハ

リアスが指揮するホーフ交響楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を、また同じくクリスティアン・ツァハリアスが指揮するポルト・カーザ・ダムジカ管弦楽団とモーツァルトの2台のピアノのための協奏曲KV365を演奏。また、クララ・ハスキル国際コンクールの開催地ヴヴェイでヴヴェイ・クラシック・フェスティバルに出演しリサイタルを行っている。2001年デュッセルドルフ生まれ。現在ワイマールのフランツ・リスト音楽大学においてグリゴリー・グルズマン教授のもと研鑽を積んでいる。2022年3月の来日リサイタルは大絶賛を浴び、以後大阪フィル、名古屋フィル、神奈川フィル、東フィル、読響など日本の主要なオケと共演を重ね、行く先々で絶賛されている。